

この人に会いました

湯沢町にNPO法人が六つ（個人・団体）ある中で地域活性化に向け地域住民を取り込んでの事業展開を目的に法人組織を立ち上げた「かたくりの会」代表の田村さんを訪ねました。

地域活性化NPO法人
「かたくりの会」代表

田村 千葉雄さん
(古野三)



・地域に観光協会がありませんがNPOを立ち上げたのはなぜですか。

協会は特定事業者の集まりで、目的も限られている。地域全体、地域住民を視野に地域の活性化のための活動を考えた時にNPOとしての活動が無理なく自然に地域に受け入れられると信じたから。

・立ち上げまでに苦労もあったと思いますが、何から始めますか。
最初に手がけたのが、湯

沢町が獨酒特区の許可を受けることの活動。県・町の理解、協力を得て認可を得られたことはこの先の活動に大きく弾みがつくと感じている。獨酒特区の趣旨説明会を近日中（4月27日）午後1時30分役場3階大会議室に町のほうで計画しているので興味のある方は是非参加してもらいたい。獨酒造りは制約もあるが地域活性の大きな原動力になるし、活用方法は無限にある。

・「かたくりの会」の会員数や事業としての取り組みは。

現在35名程、今後軌道に乗れば増えてくる。トレックキングコース造りの下見、川遊びの場所の選定、カブト虫の繁殖地作りなど、活動の地下造りが主。

冬に入って「かまくら作り体験学習」を三回計画、

二回実施延べ22名の参加者があり大変喜ばれた。我々も初めての体験であり、参加者も多様であつていろいろな希望があつた。それによつて新しい発想も生まれ来年の計画もより充実した内容に出来ると考えている。

・これまでに色々準備をしてきたことが17年度の事業において、実を結ぶ一歩になります。お客様の誘致・受け入れについて又実際の事業展開は。

今日話して明日お客が来るとはならないが、観光協会や町・県とタイアップしながら着実に根を広げ地域住民の理解と参加を得ながら事業展開を進めて行く。

☆野外体験学習(募集事業)として

①「農業体験」農家と協力し作付けから管理・収穫・料理方法までを一年間を通じて学ぶ。

②「山林生産物体験」炭焼きを通じて山林の育成、自然の大切さを学ぶ。山菜・高山植物・自然動物に触れ合いながら地域との交流を図る。

③「山羊飼育体験」都会などで飼育が難しい山羊を地域の自然の中で一緒に飼育する。山羊とのふれあい地域との交流となり活性化に繋がる。

④「雪遊び体験」雪像やかまくら作り、雪合戦などの遊びを通じて雪国を学ぶ。かまくらの中でぬくぬく料理を楽しむながら地域との交流を図る。

☆地域の参加活動事業として

①公共小河川の管理清掃作業の受託。

②町道路の清掃・除草等の管理受託。

やりたいことはいっぱいあるが今年の事業として濁酒を実際に酒造してイベント等で活用したい。

田村理事長がNPO「かたくりの会」にかける思いは深まるばかり、沈滞ムードが漂う湯沢町において、活気的な組織としての活動が展開されることを祈りたいと思います。

広報委員 今村 定一
南雲 正美

編集後記

「絆(きずな)」

昨年は7月13日の豪雨被害、10月23日の新潟県中越大地震と大きな自然災害に見舞われました。特に越後川口では阪神淡路大震災と同じ震度7を記録し、大変な被害をもたらしました。又、それに追い討ちを掛けるような19年ぶりの大寒、各地で記録的な大雪に見舞われ、心身ともに苦労の絶えない大変な一年でありました。

湯沢町は地震の直接的な被害は少なかったものの、震災以来、毎日繰り返された報道が風評となり、その影響からお客様のキャンセルが相次ぎ、観光産業は大打撃を受けました。

政府はこの夏以降景気が上向くと宣伝していますが、それが現実となつて、より多くのお客様がまた湯沢町を訪れてくれることを切に望みたいものです。

もう4月、木々も吹く風も春めいてきましたが、時にはまだ寒さが戻ります。皆様には一年でもっとも穏やかなこれからの季節のなかで、厳しかった冬の疲れをゆつくりと癒していただきたいと思います。

師田 保 広報委員

編集

湯沢町議会
広報対策特別委員会